

# 猪名川の流域対策 MAP

流域が都市化すると、それまでは森林や田畑が持っていた保水機能や遊水機能が失われ、雨水は河川にどっと流れ込むため、洪水の被害も大きくなります。それを防ぐために、猪名川流域では様々な治水対策が実施されています。



**ピロティ建築**  
(猪名川町・大陽猪名川自動車学校)  
もともと畑で、そばを流れる猪名川が増水すれば浸水していた場所なので、建物をピロティ（高床式）建築にし、教室などは2、3階に設け、1階部分は自動車の発着所に使い、万一洪水がきても浸水被害を受けないようにしています。



**校庭貯留**  
(川西市・市立川西南中学校)  
周辺が住宅地化し生徒が増えたために、第2グラウンドを増設しました。それまで畑で中に浸み込んでいた雨水を一時貯えるために、第2グラウンドの南側のテニスコートを低くし、大雨の時は雨水を貯めるようにつくられています。



**透水性舗装**  
(伊丹市口酒井)  
事務所、倉庫、工場を建築する際に、雨水の流出量を抑制するために、透水性舗装にしました。舗装を通して雨水を直接地面へ浸透させ、地中に還元させます。



**ダム**  
(一庫ダム)  
一庫ダムは、水道用水やかんがい用水に供給する利水機能と同時に、大雨で流れ出る水をダムに貯めて洪水の被害を少なくする治水機能をもっています。一庫ダムの洪水調整は、万一に備えて、100年に1度程度の確率で起こると推定される大雨を設定して計画されています。



**浸透側溝**  
(川西市・餃子の王将多田店)  
駐車場を小石を混ぜて固めた目の粗い透水性アスファルト舗装にし、雨水が浸み込みやすくなっています。地下には、浸透側溝をはじめ、浸透地下トレンチ、浸透ます、浸透井戸も設けられており、雨水を地中に浸透させます。



**地下貯留**  
(尼崎市・つかしん)  
中央に伊丹川が流れているため、つかしんに降った雨水が一度に伊丹川に流れ込まないように、地下に大きなプールのような雨水を貯める貯留施設がつくられています。



**保水機能の保全**  
(能勢町)  
自然の森や林には、降った雨を貯えたり、浸みこませたりする保水機能の働きがあります。森林など自然を守ることは、川をより安全にすることにつながります。



**駐車場貯留**  
(箕面市石丸のマンション「ロイヤルヒルズ箕面」)  
調節池の確保がなかなか難しいことや、ふだんの有効利用も考えて、貯留槽がいっぱいになったら、駐車場も雨水が貯められるように設計されています。



**調節地の有効利用**  
(豊能町・光風台自転車駐車場)  
光風台・新光風台の新しい住宅地が完成して、駐輪場が必要となりました。といても用地がなかなか確保できませんので、駅の近くの調節池の上に高床式の駐輪場を造って、空間を有効的に利用。雨水を貯める調節能力は以前と変わりません。



**調節池**  
(豊能町・ユーベルホール)  
雨水を一時的に貯えるだけの調節池をホールという施設に合わせて、野外ステージとして利用したり、子供達が水遊びできよう改修されました。大雨の際はステージ一面を利用して、水を貯めます。

**雨水貯留浸透施設**  
(池田市・猪名川工事事務所)  
屋上に降った雨水は2つの貯留池で一旦貯留する大きめの側溝は自体が貯留施設となり貯めた雨水は貯留池から徐々に下水道に流れます。また、側溝のところどころに透水性舗装が施されており、施設を組み合わせることにより、大きな雨水流出抑制効果が得られるように工夫されています。



**透水性舗装**  
(尼崎市園田)  
ざらっとした目の粗いブロックの表面や隙間から雨を浸み込ませ、地中に浸透させます。また地中に貯め込んでからゆっくりと川に流す「スポンジ」のような役割を果たしています。